

練習問題 4-8

次の資料によって、部門費振替表の空欄に適切な数値を記入して、同表を完成しなさい。
 なお、計算の過程において端数が生じた場合には、円位未満4捨5入すること。

<資料>

1. 補助部門費の配賦基準と配賦データ

部門名称	配 賦 基 準	第Ⅰ施工部門	第Ⅱ施工部門
仮設部門	セット×日数	5×8.6日	4×16.5日
車両部門	運 搬 量	?	?
機械部門	馬力数×時間	16×84時間	18×46時間

2. 補助部門費配賦のための仕訳

(借) 施工部門費	1,967,830	(貸) 仮設部門費	?
		車両部門費	?
		機械部門費	847,080

3. 施工部門費の合計

施工部門費の合計は、¥9,647,130であった。

直接配賦法 部門費振替表 (単位：円)

摘 要	施 工 部 門		補 助 部 門		
	第Ⅰ施工部門	第Ⅱ施工部門	仮 設 部 門	車 両 部 門	機 械 部 門
部 門 費 合 計	4,587,700				
仮 設 部 門 費					
車 両 部 門 費	159,710	376,800			
機 械 部 門 費					
補助部門費配賦額					
施 工 部 門 費					

練習問題 4-9

次の資料を参照して、解答用紙の補助部門費振替表を完成しなさい。

<資料>

- 補助部門費の配賦は相互配賦法（第2次配賦は直接配賦法）とする。
- 第1次配賦の配賦割合は次のとおり。

	第1施工部門	第2施工部門	機械部門	車両部門
機械部門費	40%	35%	—	25%
車両部門費	45%	45%	10%	—

- この振替表に基づいて、経理は次の仕訳をした。

(借) 第1施工部門費	187,628	(貸) 機械部門費	194,840
第2施工部門費	169,932	車両部門費	162,720

[相互配賦法] 補助部門費振替表 (単位：円)

摘要	合計	第1施工部門	第2施工部門	機械部門	車両部門
部門費合計	1,637,520	685,700	594,260		
第1次配賦					
機械部門費				—	
車両部門費					—
第1次配賦額					
第2次配賦					
機械部門費			7,850		
車両部門費		28,046			
第2次配賦額					
合計	1,637,520				

練習問題 4-10

次の補助部門費の配賦データと関連仕訳を参照して、「部門費振替表」を完成しなさい。
 なお、計算過程において端数が生じた場合は、円位未満4捨5入して処理する。

(1) 補助部門費の配賦データ

イ. 補助部門費の施工部門への配賦は、階梯式配賦法を採用している。

ロ. 同配賦の配賦比率は次のとおり。

	第1施工部門	第2施工部門	仮設部門	機械部門	車両部門
車両部門	42	68	8	12	—
機械部門	19	27	4	—	—
仮設部門	(部門費振替表において推定)		—	—	—

(2) 関連仕訳

イ. 補助部門費の施工部門への配賦のとき

(借) 施工部門費	790,810	(貸) 仮設部門費	247,610
		機械部門費	361,200
		車両部門費	182,000

(3) 第1施工部門の施工部門費合計 ￥4,689,340

階梯式配賦法 部門費振替表 (単位：円)

摘 要	施 工 部 門		補 助 部 門		
	第1施工部門	第2施工部門	仮設部門	機械部門	車両部門
部門費合計	4,371,280	8,031,270	247,610	<input type="text"/>	<input type="text"/>
車両部門	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	—
機械部門	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	—	—
仮設部門	<input type="text"/>	<input type="text"/>	—	—	—
施工部門費	<input type="text"/>	<input type="text"/>			

練習問題 4-11

次の資料に基づいて、施工部門別の予定配賦率および工事番号別の予定配賦額を計算し、第3次集計の仕訳および施工部門費配賦差異の仕訳を行いなさい。

(1) 各施工部門の年間施工部門費予算額

第1施工部門費 ¥13,200,000 第2施工部門費 ¥ 9,072,000

(2) 各施工部門の年間基準操業度

第1施工部門 24,000時間 第2施工部門 21,600時間

なお、第1施工部門と第2施工部門の配賦基準は直接作業時間である。

(3) 各施工部門の工事番号別の実際直接作業時間（実際操業度）

	工事番号# 1	工事番号# 2	工事番号# 3	合 計
第1施工部門	720時間	650時間	430時間	1,800時間
第2施工部門	640時間	480時間	530時間	1,650時間

(4) 各施工部門費の実際発生額（部門費振替表より）

第1施工部門費 ¥ 1,020,000 第2施工部門費 ¥ 658,000

予定配賦率

第1施工部門 @¥ _____ 第2施工部門 @¥ _____

予定配賦額

	工事番号# 1	工事番号# 2	工事番号# 3	合 計
第1施工部門費	¥ _____	¥ _____	¥ _____	¥ _____
第2施工部門費	¥ _____	¥ _____	¥ _____	¥ _____
予定配賦額合計	¥ _____	¥ _____	¥ _____	¥ _____

第3次集計の仕訳

.....

施工部門費配賦差異の仕訳

.....
